

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 金 II	必修選択	選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化 (哲学入門) Humanity and Culture (Introduction to Philosophy)			
対象年次 1・2 年次	講義	教室		
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類		人文・社会科学	
担当教員: フェーデン・ゲアハルト		/Eメールアドレス: g-faden@net.nagasaki-u.ac.jp		
/研究室: 環境科学部一階		/TEL: 095-819-2774		
/オフィスアワー: 講義の前後				
担当教員(オムニバス科目等)				
<p>授業のねらい</p> <p>哲学は大変難しく、実際生活から離れた学問と思われていますが、実は哲学をやらない人はいません。つまり、人間は誰でも自分の魂、自分の生きるべき方法、存在の本質などについて何らかの概念を持っています。この講義では、この概念について考察します。</p> <p>授業方法</p> <p>プリント資料に基づいて哲学の基礎問題を学習します。</p> <p>授業到達目標</p> <p>学生が形而上学の意味、心身の問題、哲学と科学、宗教と科学の関係について説明できることを狙っています。</p>				
<p>授業内容(概要)</p> <p>哲学の主要問題を論じます。</p> <p>第1回~第2回 哲学の根源と本質について。広義の哲学と狭義の哲学。理論 (theoria) の本来の意味。哲学には進歩があるかについて。</p> <p>第3回~第4回 形而上学の基本概念: 魂、自由、存在、神について。</p> <p>第5回 相対主義、実用主義、実証主義、不可知論とその批判。現象学の方法(本質直観)について。</p> <p>第6回~第7回 心身の問題 I: 脳研究と哲学。人間精神は脳の附随現象か自立した存在かについて。</p> <p>第8回~第9回 心身の問題 II: 形而上学に基づく説 (Platon, Leibniz) と唯物論に基づく説。</p> <p>第10回~第11回 進化論。ダーウィン主義(ネオ・ダーウィニズム)と自然哲学。生命と意識の根源問題。生物は偶然か知性的計画の産物かについて。宗教と科学の関係 (Galilei, Darwin, Freud)。</p> <p>第12回~第13回 人間の特徴は何であるかについて。精神と衝動。形而上学に基づく人間観 (Scheler) と生物学に基づく人間観 (Monod, Lorenz)</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 全授業の総括</p>				
キーワード				
教材・参考書	M.シェーラー (Scheler)、宇宙における人間の地位。 カール・ポパー (Popper) & ジョン・C. エクルズ (Eccles)、自我と能。 プリント資料。			
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度 20%、定期試験 80%。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ/学習・教育目標				
備考(準備学習等)				